中東遠

ＡＩ時代人材テーマに講演

静岡理工科大

袋井市豊沢の静岡理工科大は5日、開学30周年記念事業の公開講座を同大で開き、サイエンス作家の竹内薫氏が「アフターコロナ、ＡＩ時代に求められる人材と働き方」と題して講演した。オンライン配信し、学生や一般約１２０人が聴講した。

30周年記念事業の公開講座冒頭であいさつする山崎教授＝袋井市豊沢の静岡理工科大

竹内氏は人工知能（ＡＩ）やＩｏＴ、５Ｇなどの具体例を示し、コロナ禍で「第４次産業革命」が加速していると強調。ＡＩに奪われない生き残る仕事の一例にソーシャルワーカーや心理カウンセラー、小学校教諭などを挙げ、共通項を「ゼロからつくる、心と深く対面する仕事」とした。高度なプログラミングで人工知能を操る側の仕事は今後増えるとも予測した。「アフターコロナを生き抜くには、将来どうなるか仮説を立て準備することが必要」と呼び掛けた。

講演に先立ち、山崎誠志理工学部教授が同大の30年の歩みや記念のキャッチフレーズ「1＋1＋1＝∞で共に未来を創る」を紹介。研究力を生かした同大の教育の特徴を説明した上で「今後も地域発展の知の拠点、人材輩出の拠点として挑戦していく」と述べた。

静岡新聞社編集局調査部許諾済